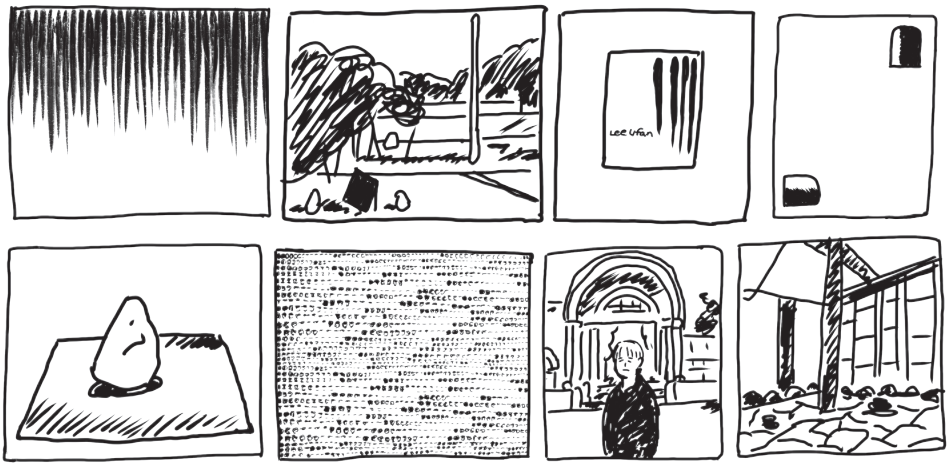
李禹煥

ウェブ　画像　動画　ショッピング　ニュース

作品　もの派　ヴェルサイユ　関係項　直島



李禹煥鑑賞ガイド

一九五六年、ソウル大学校美術大学に入学。

デッサン？

夏休みに横浜に住むおじさんへ漢方薬を届けるため船でこっそり来日。

いろいろ見るものめずらしく

おじさんのすすめで日本に残り、拓殖大学で日本語を学ぶことに。

によって
に対して
において

日本大学文理学部哲学科へ編入。

マルティン・ハイデガーを学ぶ。

先生の家へ遊びに行き、アメリカの雑誌などを見せてもらい、ジャクソン・ポロックやマーク・トビーの作品を見て驚く。

ART

大学卒業後は演劇をしたり、

日本画の技法を学んだり、

一九六〇年代前半には当時の多くの人々がそうであったように韓国の軍事政権反対や南北統一運動に深く関わった。

当時、世界的にも多くの若者が政治運動や社会運動に関わり、大きな変革のうねりの中にあった。

STOP THE WAR NOW

こうした閉塞感を打ち破ろうとする若者のエネルギーが満ちた時代に、李は美術的な表現に向かっていくようになる。

一九六六年ギャラリー新宿の運営に関わるようになり、その後石子順造と出会い、

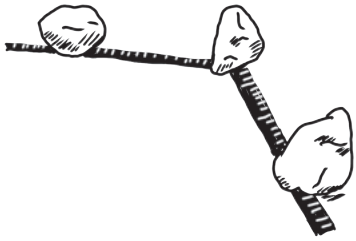
当時開催されたグループ「幻触」による展覧会でふしぎなトリックに興味を持つ。

実在のものと視覚のズレでだまされてしまう…

一九六八年ころから作品の立体的な展開を試みる。

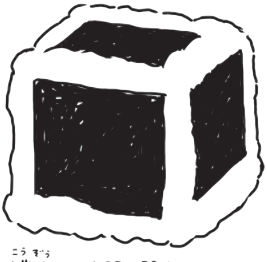
石を落としたの？

《現象と知覚B　改題　関係項》1968



メジャーが伸びてうまくはかれない…

《現象と知覚A　改題　関係項》1969
ゴムのメジャーを引っ張って重い石でおさえる



《構造A　改題　関係項》1969

ふわふわの綿と固い鉄板？

トリックの流れをくむ目の錯覚を用いた高松次郎や関根伸夫らの作品から影響を受け

カンヴァスと蛍光塗料でハレーションを起こす作品やメビウスの輪を平面化したような試みを一年ほど続ける。

影が重なっている

高松次郎《影》

関根伸夫《位相No.5》1968

李禹煥《第四の構成A》1968

一九六八年秋、関根伸夫の《位相－大地》を見て、トリックと現実がつながる瞬間に立ち会い興奮する。

大地がひっこぬかれて地上に置かれたみたい

一九七九年あたりから石と鉄板のようにだんだん限られた素材が組み合わせられるようになる。

鉄は鉄鉱石という石を熱で溶かして作られるので、石と鉄は親子の関係とも言える。

加工された鉄板と自然の石

《関係項－サイレンス》1979

一九六九年美術出版社芸術評論賞で論考「事物から在在へ」が入賞。

さらに一九七一年には『出会いを求めて』刊行。文章でも活躍する。

一九七一年、第七回パリ青年ビエンナーレに参加。ヨーロッパの作家たちと出会う。

いろいろなものを見て刺激される。

ルーチョ・フォンタナ

ダニエル・ビュレン

三ヶ月にわたり、ギリシャ、イタリア、アメリカなど初めての世界旅行。

イヴ・クライン

クロード・ヴィアラ

なかでもニューヨーク近代美術館でのバーネット・ニューマンの展覧会を訪れ、

絵画というより物質的な空間…

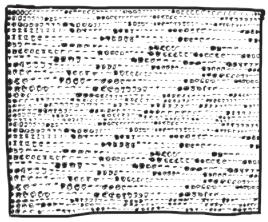
大きな空間が迫ってくるようだ。

衝撃を受ける。

絵画に再び取り組むことに。

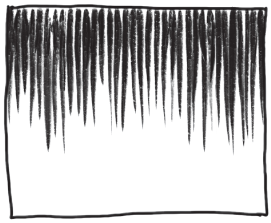
身体と絵具を直接ぶつける等身大の絵をやってみよう!!

点と線を繰り返す作。を描く。



《点より》いわき市立美術館、1973

濃い点や線がだんだん薄く消え、また始まる。



《線より》東京国立近代美術館、1997

点や線は一回限り、呼吸、リズム、調子が表れ、失敗は許されない。

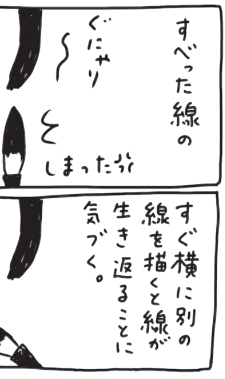
まるで自己修練のよう。

一九七〇年代半ばから次第に制作と発表の場をヨーロッパに移す。多摩美術大学で教えながら行ったり来たり。

一九八〇年代初め、筆を持って絵を描こうとすると、冷や汗が出て手が震え描けなくなる。

身体を追い込みすぎてしまった。そんな中、

すべった線のぐにゃり



すぐ横に別の線を描くと線が生き返ることに気づく。

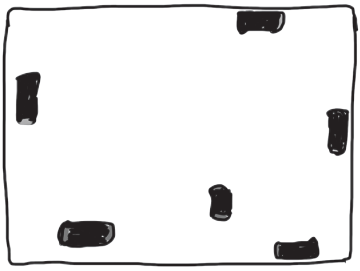
点と点、線と線の間にある空間を意識するようになり、一九八〇~九〇年代には、厳しい規則から離れ、点や線がばらされる。

混とん

《風より》豊田市美術館、1985

次第に描いていない部分が面白くなり、かなり点や線が少なくなる。

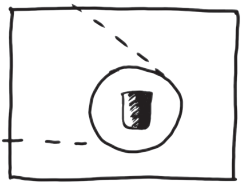
単純



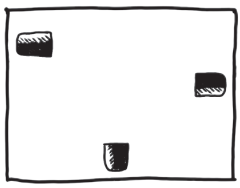
《照応》神奈川県立近代美術館、1992

そして二〇〇〇年、一、二個の点で構成される絵が登場。わずかな要素でまわりの空気が変わる。

絵と空間がひびき合う



《応答》、2021

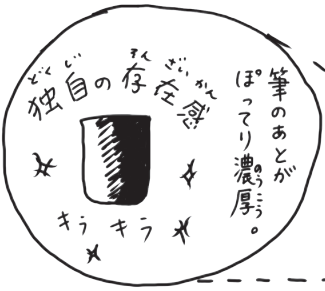


《対話》、公益財団法人福武財団/李禹煥美術館、2009

いつもと何か違う…

筆のあとがぽってり濃厚。

独自の存在感



二〇〇四年以降、壁に直接描くことも。

二〇〇〇年ごろから、世界各地で活発に個展が開催されるようになる。

●2016 エルミタージュ美術館、サンクトペテルブルグ
2018 サーペンタイン・ギャラリー、ロンドン
●2008 アジア美術館、ベルリン
●2001 ボン市立美術館
●2008 ベルギー王立美術館、ブリュッセル
●2019 ポンピドゥー・センター＝メス
●2013 狩猟自然博物館、パリ
●2005 サン＝テティエンヌ近代美術館
2007 ヴェネチア・ビエンナーレ
2013 サン・ローラン教会、アルル

2011 ソロモン・R・グッゲンハイム美術館、ニューヨーク
2019 ディア・ビーコン、ニューヨーク
2019 ハーシュホーン美術館・彫刻の庭、ワシントンD.C

二〇〇一年には高松宮殿下記念世界文化賞を受賞。その他叙勲も多数。

二〇〇〇年に出版した『余白の美術』は世界各国で翻訳出版されている。

2005 横浜美術館
2003 ホアム美術館とロダン・ギャラリー、ソウル

二〇一〇年香川県直島に李禹煥美術館。

Lee Ufan Museum
Photo : Tadasu Yamamoto

非日常的な空間

二〇一五年韓国釜山に李禹煥空間。

Courtesy: Busan Museum of Art

二〇二二年四月フランスに李禹煥アルル。

(c) Lee Ufan 2022
Photo(c) Lee Mina

作品を置くことでその場が違って見えてくる。

二〇一四年、フランス ヴェルサイユ宮殿

Photo : Archives Kamel mennour
Courtesy the artist, Kamel mennour, Paris, and Pace, New York

二〇二一年、フランス アリスカン

© Studio Lee Ufan/Phot by Claire Dorn.
Courtesy of Lisson Gallery

いろんな空間で見られる美術館

個人美術館

歴史的な場所とコラボ

そして十七年ぶりの日本での大規模な回顧展が行われているここ!!
美術館のこの空間。

自己は有限でも、外部との関係で無限があらわれる。
表現は無限の次元の開示である。

李禹煥

作品をみる時のやくそく

美術館には作品を守り、みんなが気持ちよく過ごすためのルールがあります。

李禹煥 鑑賞ガイド

東京会場　国立新美術館　企画展示室1E
2022年8月10日(水)ー11月7日(月)
休館日：火曜日
〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
お問い合わせ：050-5541-8600（ハローダイヤル）
HP：https://www.nact.jp

兵庫会場　兵庫県立美術館
2022年12月13日(火)ー2023年2月12日(日)
休館日：月曜日
〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1-1
お問い合わせ：078-262-1011
HP：https://www.artm.pref.hyogo.jp/

主催：国立新美術館、兵庫県立美術館、朝日新聞社、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
協力：SCAI THE BATHHOUSE
展覧会HP：https://LeeUFan.exhibit.jp/
編集：国立新美術館
　　兵庫県立美術館
マンガ：満腹家もぐもぐ
印刷：能登印刷株式会社
発行：国立新美術館、兵庫県立美術館
発行日：2022年8月10日
©国立新美術館、兵庫県立美術館

国立新美術館
THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO

兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

日本博
JAPAN CULTURAL EXPO
心を、うごかそう。
Art Moves Us All.
令和4年度日本博主催・共催型プロジェクト